

Title	たより
Author(s)	野尻, 抱影
Citation	天界 = The heavens (1934), 14(159): 334-334
Issue Date	1934-06-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/165553">http://hdl.handle.net/2433/165553</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

を記して擱筆する。(5月1日記)

**附記** 去五月三日には當會長山本博士及同夫人の御來觀を請ひ、木星等の姿を見て頂いた。シリングは比較的良好であつたが、デフイニションが悪く、255×以上の使用に耐へなかつた。然し丁度、大赤斑が中央子午線を通過した直後だつたので、水を切つて進んだ舟の後の様に帯が二條に分れて、その邊が複雑な形状をして居るのが目について面白く見られた。未だ時計等の整備も不充分であるが、先生が本當に器械が良くなるのは數年使つて充分器械が馴れた時にあると言はれたので、氣長く修正して器械全體を良く馴らそうと思つて居る。往々にしてその状態に達せずして廢物にする人すらあるそうだから。

猶當地は甚だ邊鄙ではあるが空は餘程暗い。使用如何に依つて能率が決まる故、萬全を期して器械を無駄にしない様に氣を付けると共に先生を初め諸賢の御指導を仰ぐものである。5月24日記

(私言) 猶ほ今回の望遠鏡は全然私室の延長であります故、特殊關係のある方以外には都合に依つて御參觀を御斷りする事がありませうから、不惡一應この點は御含み置きを願ひ上げます。

## た よ り

山 本 一 清 様

拜啓 其後御無音に打過ぎ失禮致して居ります。〔天文用語〕に關する御論、當初に小生に御言及下さいまして恐縮且つ光榮に存じます。早速御挨拶申上ぐべきで御座いましたが、身邊多事にて失禮致して居りました。本日第二回拜讀、大分イタク、たちたちと相成りました。しかし多少私見もあり、その中、取りまとめ御目を汚すつもりで居ります(東京天文臺にて初めて星座名を定めました當時の文獻などもあります)。どうぞ徹底的に御高見伺はせて戴き度く、その方、張合ひが御座います。以上不敢御挨拶のみ失禮御察し願上ます

不 一

五月十八日

野 尻 抱 影